タバコの煙管と碁石

忙しい二の丸御殿にも、くつろぎと楽しみの時間があった。遺跡からは 22 本の煙管とその莖、そして囲碁に使われた石が発見された。

タバコが日本に初めて持ち込まれたのは 16 世紀末のこと。1601 年、フランシスコ会の宣教師ジェロニモ・デ・ジェズス・デ・カストロ（1601 年没）が、徳川幕府を開いた徳川家康（1542-1616）にタバコの種を献上した。家康はこれを好ましく思わなかったようで、幕府はタバコを悪習として禁止した。しかし、タバコの人気はとどまらず、やがて解禁された。松本はタバコの栽培が盛んで、江戸（東京）や名古屋といった大都市にタバコを輸出していた。

囲碁は中国発祥の戦略ボードゲームで、日本には 7 世紀ごろに伝わったとされている。19×19 のマス目に黒と白の石を交互に置いていき、陣地と相手の石を囲んで攻略することを目指す。二の丸御殿跡で発見された碁石は、黒粘板岩と蛤の殻でできていた。